

ソロモン OCR メニュー

操作説明(汎用設定)

Honeywell 社エリアイメージャー Xenon1900に搭載した、(株)イメージャー製 OCR デコーダー「ソロモン OCR」に関する各種設定を作成するツール「ソロモン OCR メニュー」のうち、

「汎用設定」

に関する操作概要を解説するものです。

【免責事項】

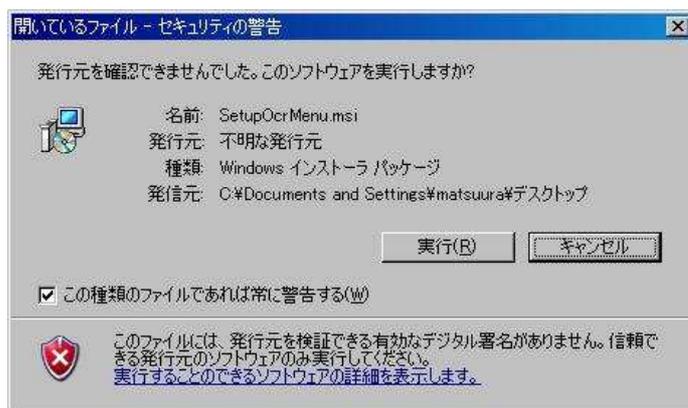
- ・ Honeywell 社ならびに(株)イメージャーは、本書に記載された情報を事前に断りなく変更する場合があります。
- ・ ソロモン OCR、ソロモン OCR メニュー、ならびに本書の技術的仕様や編集上の誤り等の結果発生した損害について、弊社では一切の責任を負いません。

【ソロモン OCR メニューのインストール】

PC の OS 環境によりまして画面や挙動が異なる場合があります。ご了承ください。



PC 上に、インストールファイル「SetupOcrMenu.msi」をコピーし実行しますと、インストーラーが起動します。



OS のセキュリティでこのような画面が表示された場合も、「実行」を選択してください。

後は、画面の手順に従ってインストールを行なってください。

【ソロモン OCR メニューの起動】

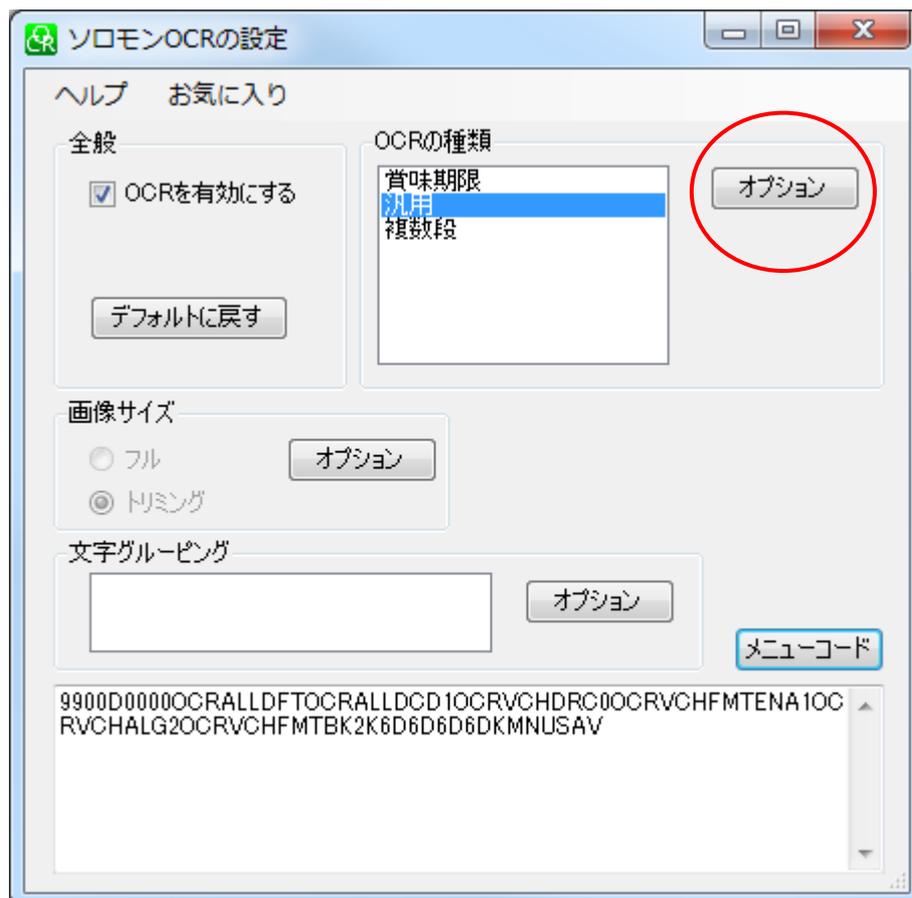
インストールが完了しますと、デスクトップ上に、「Solomon Ocr Menu」アイコンが出来ますので、起動してください。



下記のように「設定」を選択してください。



OCRの種類を「汎用」→「オプション」を選択してください。



「汎用 OCR のオプション」画面が開きます。

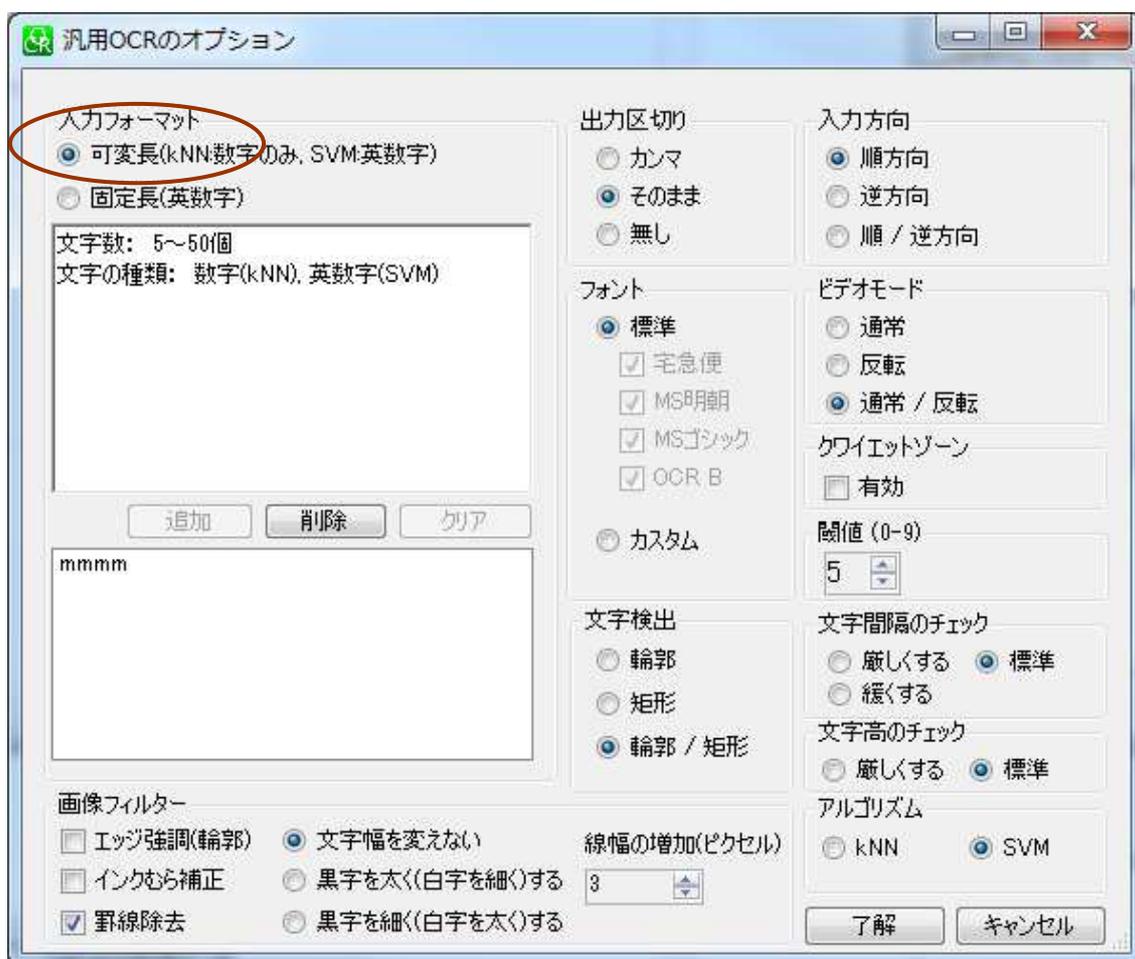
ここでは、

- ・ 可変長(数字のみ)
- ・ 固定長(英数字)

の2種類について設定を作成することができます。

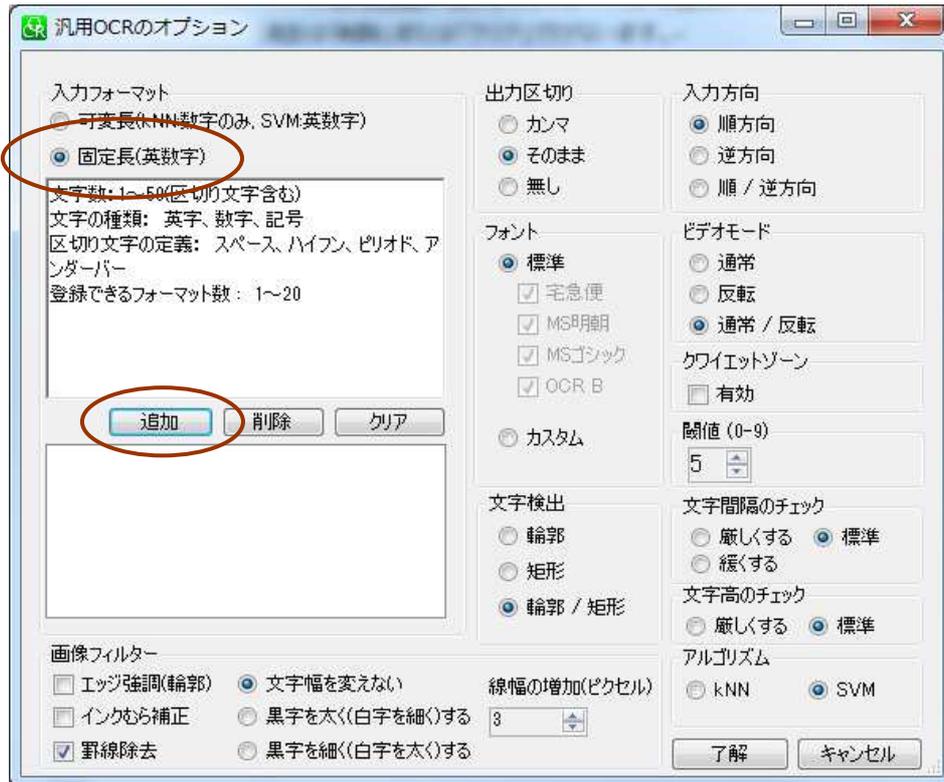
【可変長(数字のみ)】

可変長(数字のみ)は、文字列が数字のみの場合に、最大 50 文字までの認識が行なえます。但しこれは設定上の理論値であり、文字の大きさや品質といった状況にもよるため、50文字まで読めることを保証するものではありません。実際の読み取り可能値は印字状態により異なります。



英数字が混在する場合の設定は、「固定長(英数字)」で設定します。

【固定長(英数字)】



「追加」を押してください。フォーマットを設定する画面が開きます。



「固定長(英数字)」で認識できる読み取り可能なフォントは下記の通りです。

- 1. 英字 : ABCDEFGHIJKLMNOPQRSTUVWXYZ
- 2. 数字 : 0123456789
- 3. 記号 : < > * + # () / ¥
区切り文字 : - [ハイフオン] [スペース] . [ピリオド] _ [アンダーバー]

(詳しくは画面上の記載を参照ください) ※小文字は非対応です。

1つのフォーマット(例えば、大文字アルファベット8文字の場合は、IIIIIIII)を設定後、「了解」を押すと、フォーマット設定画面が閉じます。フォーマットを追加するには「追加」ボタン、作成したフォーマットの消去は「削除」または「クリア」で行ないます。

【「固定長」フォーマットの設定例について】

上記画面による固定長フォーマットの設定例をいくつか記載しておりますので、ご参照ください。フォーマットや各種設定が終了しましたら、「汎用 OCR のオプション」画面で、右下の「了解」を押しますと、下記画面に戻ります。

(参考例) 固定長フォーマットの設定例

制限ならびに注意事項

① 1文字のみの設定について

1 文字だけ(例: “1” “A” “5” “P” など)を設定する場合は、両側に強制的にスペースが設定されます。このため、読み取り対象の両側に十分な空白が無い場合は読み取れません。また、「入力方向」は、順方向か逆方向のどちらか一方を選択する必要があります。

2 文字以上と比べて、傾き(チルト)特性が劣るため、大きく傾けて読むと誤読を誘発します。

② 区切り文字について

区切り文字として、

- ・ ピリオド
- ハイフン
- スペース

に対応しておりますが、スペースのみの連続を除いて、他の区切り文字は1つ以上連続して設定することはできません。

ピリオドは対応しておりますが、“・”(中点)は対応しておりません。

ハイフンは、十分な長さを必要とし、短い場合、ハイフンとは認識できません。

ピリオド、ハイフンは印字品質によっては見落としてしまい認識できなかつたり、逆に、汚れを誤認識する場合がありますので、一定の印字品質である必要があります。

連続したスペースを設定できますが、文字列の文字間隔が一定であるフォントの必要があります。MS P ゴシックのように、文字間隔が変動するフォントではスペース設定が上手く読めない場合があります。

<文字列の例>

BLACK01 . . . フォーマット設定例

BLACK01

(解説)

製品名のように文字が特定できる場合は、完全に文字を指定する事で、最適なパフォーマンスが得られます。

A12345678-01 . . . フォーマット設定例

lddddddd-dd

(解説)

アルファベットか数字のどちらか特定できるのであれば、どちらかに限定するのがコツです。

限定できない場合は「大英数字(a)」によって対応できますが、

0 (ゼロ)、O (オー)、D (ディー) のような場合、誤読する恐れがあります。

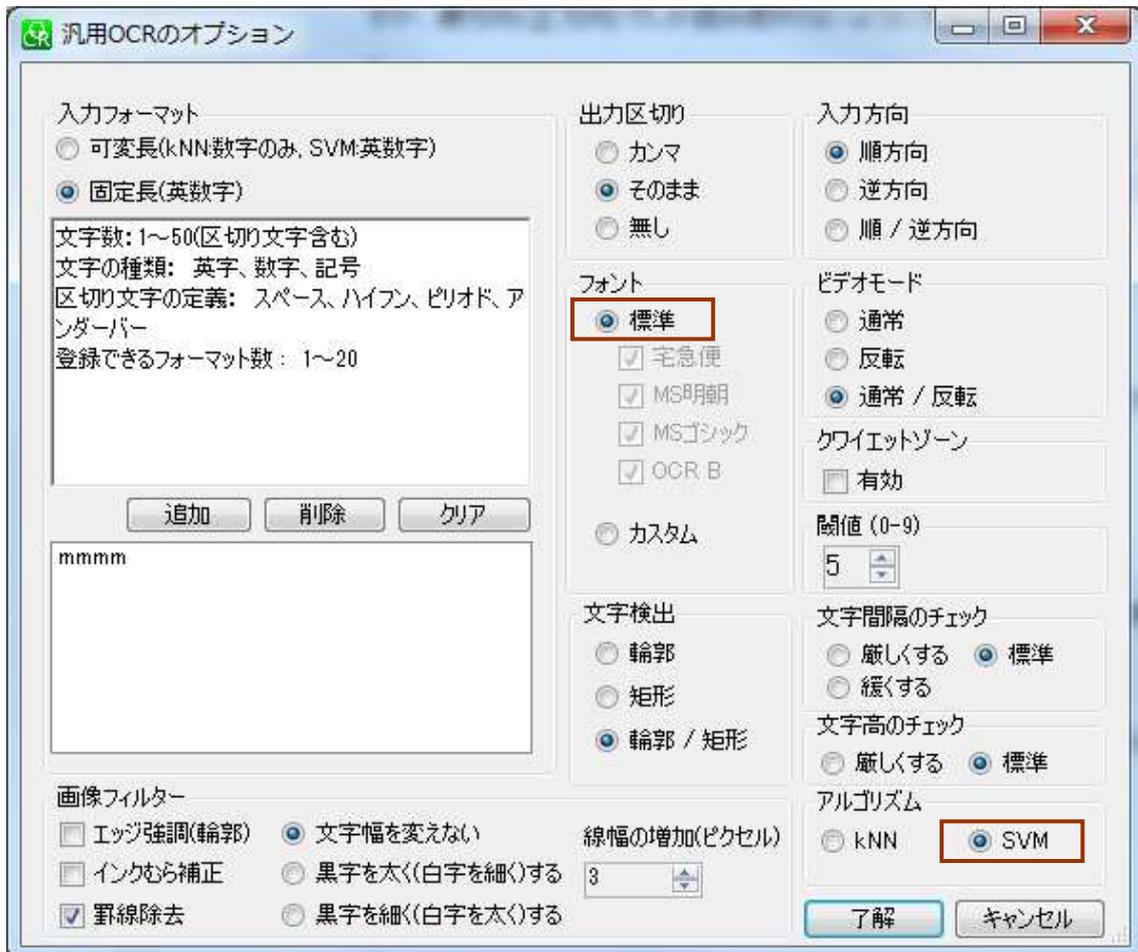
3.14 1516 . . . フォーマット設定例

d.dd^dddd

(解説)

このように、ピリオドならびにスペース (この場合、2文字分) を使用する事ができます。

【各項目の解説】



“アルゴリズム”

運用方法に合わせて選択をしてください。*SVM 推奨

*2p にて詳細を記載してあります。

“フォント”

標準で使用してください。カスタムに変更すると正しく読み取りが出来ません。

“出力区切り”

フォーマットの中に区切り文字があった場合に、読み取り後、出力する際に区切り文字をどうするかの設定です。

“入力方向”

文字をどの方向で読み取れるようにするかの設定です。逆方向(さかさま)でも読めるのは便利ですが、順方向(正方向)でしか読み取れないようにするほうが、誤読の抑制につながります。

“ビデオモード”

文字と背景のコントラストの状況によって、必要であれば設定します。

デフォルトは、通常/反転になっていますが、どちらかにできるほうが、パフォーマンスが若干良くなります。

“クワイエットゾーン”

読みたい文字列の左右に1文字分以上の空白(クワイエットゾーン)があるほうが文字の認識がしやすくなります。

もしそのような空白がある場合はチェックを入れてください。

“閾値”

文字の読みやすさ、認識のしやすさと、誤読/誤出力のしやすさは比例します。

つまり、

誤読しにくくすると、認識しにくくなり、読みにくくなります。・・・①

読みやすく、認識しやすくすると、誤読が発生しやすくなります。・・・②

その、閾(しきい)値の設定で、デフォルトは5です。

数字を高くすると、①になります。

数字を低くすると、②になります。

通常は3～7程度の間で調整します。

“文字検出”

「輪郭/矩形」の状態のまま使用してください。

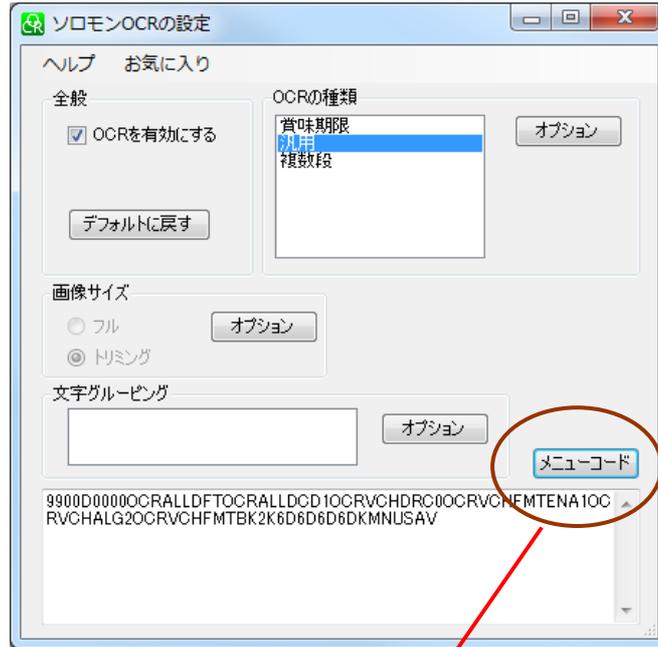
“文字間隔のチェック” “文字高のチェック”

文字列の各文字間隔や高さが正確でない場合、これを調整する事でパフォーマンスが改善する場合があります。

但し、読みやすく事で誤読が多くなる場合があります。

“画像フィルター”

インクむら補正をチェックしてください。その他は変更せずに使用して下さい。



「メニューコード」を押すと設定用のコードが生成されます。



「保存」を押しますと、ビットマップでこのコードを保存することができます。

「印刷」を押しますと、このコードを印刷しますので、それを読んで設定します。